

第 10 章	社会(地理)	名前:	日 付	No.03
	産業			

[問題 1]

日本の農業について述べた下の文章の()内から正しい方をそれぞれ選びなさい。

- ・ 日本の農業は規模の①(大きい／小さい)自作農が多いことが特色です。また、単位面積あたりの収穫量は②(多い／少ない)ことも特色です。生産費が高いため、輸入農作物に比べ国産の農産物の価格は③(高い／安い)。
- ・ 日本の土地利用は、東南アジアの国々と同じように水田率が④(高い／低い)。機械化の進んだ今では人手を多く必要と⑤(する／しない)。
- ・ 他の仕事と兼業する農家の割合が⑥(多い／少ない)。
- ・ 1960 年代以降、食生活の変化などにより、米の消費量は⑦(増加／減少)してきた。

[解答欄]

①小さい	②多い	③高い	④高い	⑤しない
⑥多い	⑦減少			

[解説]

[日本の農業の特色] ・小規模→輸入農産物より価格が高い (※ 単位面積あたりの収穫量は多い) ・機械化→人手がかからなくなった ↓ 兼業農家(80%以上) ・田の割合が高い(54%)

わが国の農業は、販売農家 1 戸あたりの平均耕地面積が 1.9ha(2009 年)で、多くの農家は世界的に見ると零細経営である(自給用の農業を行っている農家もあわせた総農家の平均は 1.27ha)。

日本の経営規模を 1 とすると、EU は約 10 倍、アメリカは約 100 倍、オーストラリアは 2000 倍近くで、日本の農家の規模は非常に小さいことがわかる。

日本では、せまい農地に多くの肥料を使い、機械化を進めてきたので単位面積あたりの収穫量は多いが、その反面で、生産費(人件費・肥料代・農業機械の償却費など)が高くなっている。

(統計出典)「日本国勢図会 2010/2011」P143

[問題 2]

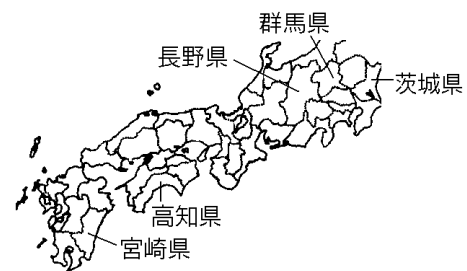
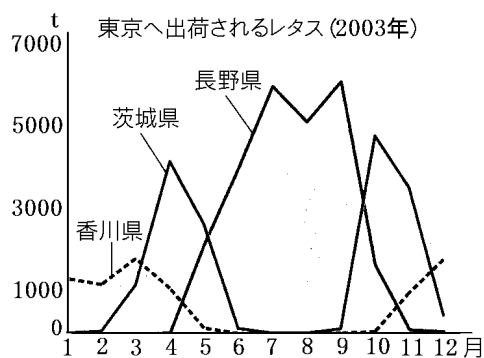
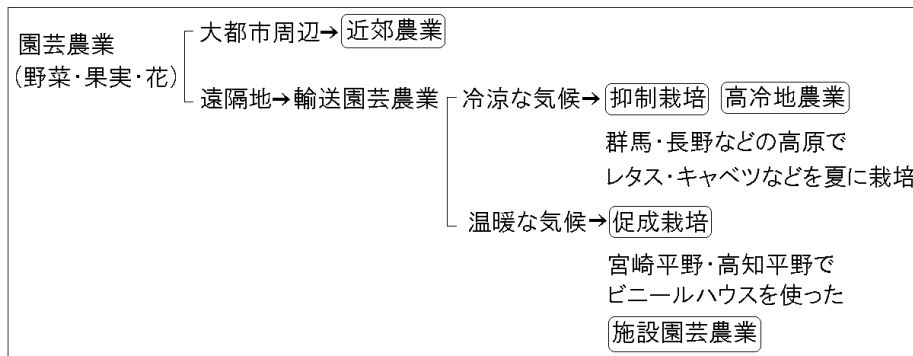
次の文章の空欄に適語を入れよ。

園芸農業は都市向けに(①)・果実・花などを生産する農業であるが、このうち、大都市周辺で行う農業を(②)農業という。大都市から離れたところでは輸送園芸農業が行われ、群馬や長野の高原では涼しい気候を生かした(③)栽培が、高知や宮崎では温暖な気候を生かした(④)栽培が行われている。

[解答欄]

①野菜	②近郊	③抑制	④促成
-----	-----	-----	-----

[解説]



都市向けに野菜・花き・果実などを生産する農業を園芸農業という。

野菜など新鮮さが求められる作物は大消費地に近い場所でさかんに栽培されている。このように大都市周辺でおこなわれる園芸農業を**近郊農業**という。

レタスを例にとると、東京に近い茨城県ではレタスの栽培がさかんである(近郊農業)。レタスは春と秋の季節に適した作物であるので、春と秋に茨城県から東京市場へ出荷される。気温の上がる夏には栽培できないので、夏の間には茨城県からの出荷はほとんどなくなる。昔は、このように野菜の出荷される季節がそれぞれ決まっていた。

しかし、現在は、1年中レタスは店頭に並んでいる。これを可能にしたのは、高速道路や保冷トラックなどの輸送手段の発達であった。比較的、標高が高くて夏でも涼しい気候を利用して、長野県ではレタスの栽培を行い、高速道路を使って東京まで短時間で運んでいる。長野県や群馬県の高原では夏の涼しい気候を利用してレタス・キャベツ・はくさいなどを出荷する**高冷地農業**がさかんである。涼しい気候を利用して収穫・出荷を(春よりも)遅らせるという意味で**抑制栽培**とよんでいる。

もう一度グラフを見ると、冬の時期には香川県からの出荷が多いことがわかる。香川県では、冬でも暖かい気候を利用してレタスを作る**促成栽培**を行っている。

促成栽培がとくにさかんなのは、**高知平野**と**宮崎平野**である。温室やビニールハウスのような施設を使って野菜(なす・きゅうり・ピーマン)などの促成栽培をおこなう**施設園芸農業**がさかんである。

[問題 3]

次の各問いに答えなさい。

- (1) 大都市周辺で、大都市の消費者向けに野菜・花などを作る農業を何とといいますか。
- (2) 野菜の成長を早めて時期をずらして栽培する方法を何とといいますか。
- (3) (2)の問いでこの栽培をしている四国の平野を答えなさい。

[解答欄]

(1) 近郊農業	(2) 促成栽培	(3) 高知平野
----------	----------	----------

[解説]

関東平野は火山灰が厚く降りつもってできた関東ロームとよばれる赤土でできているため、水もちが悪く、水田ではなく畑作が農業の中心である。

東京という大消費地むけに野菜や花などを栽培する近郊農業がさかんである。

[問題 4]

次の各問いに答えなさい。

- (1) 九州の宮崎平野でみられるビニールハウスを使って野菜の生育を早める栽培方法を何とといいますか。
- (2) (1)のようにビニールハウスなどを使った農業を何とといいますか。

[解答欄]

(1) 促成栽培	(2) 施設園芸農業
----------	------------

[解説]

九州の宮崎平野でみられるビニールハウスを使って野菜の生育を早める栽培方法を促成栽培という。

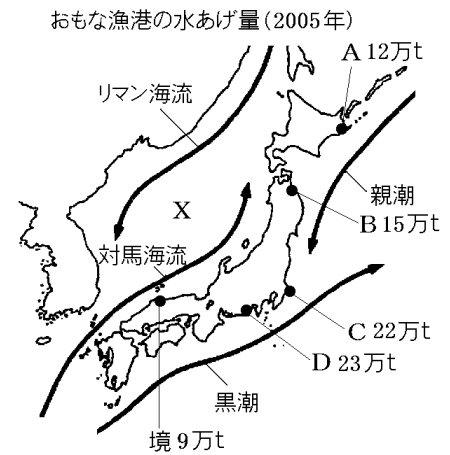
また、このようなビニールハウスなどの施設を使った農業を施設園芸農業という。

[問題 5]

地図とグラフを見て以下の問いに答えなさい。

- (1) 図中の X の海の名前を答えなさい。
- (2) 図の海流を暖流と寒流に分けなさい。
- (3) 暖流と寒流がぶつかる場所を何というか答えなさい。
- (4) 図の A～D の漁港名を、それぞれ次から選び答えなさい。

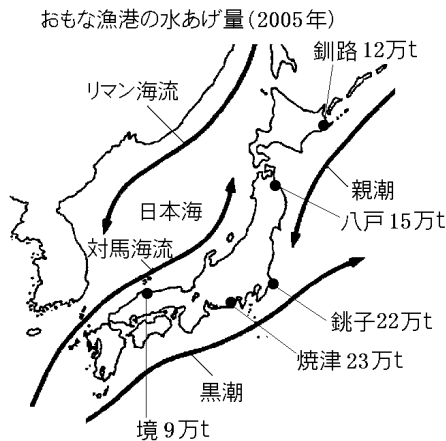
〔 釧路 八戸 石巻 気仙沼 銚子 焼津 〕



[解答欄]

(1) 日本海	(2) 寒流：親潮、リマン海流		
暖流：黒潮、対馬海流			(3) 潮目
(4) A 釧路	B 八戸	C 銚子	D 焼津

[解説]

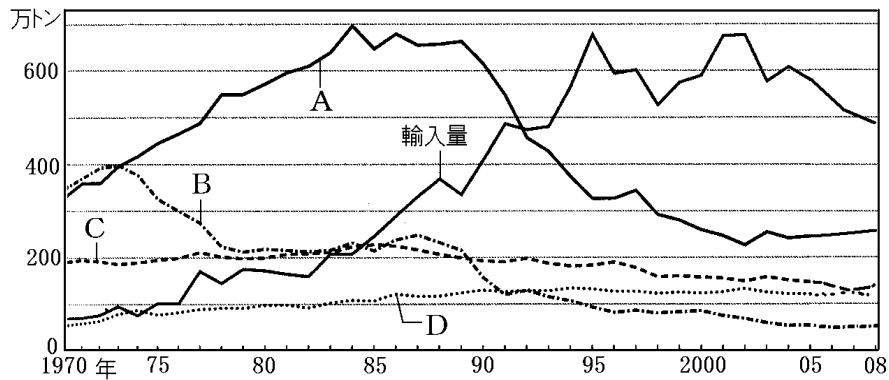


南から北へ流れる海流は暖流で、北から南へ流れる海流は寒流である。太平洋側では、暖流の日本海流(黒潮)と寒流の千島海流(親潮)が三陸沖でぶつかって潮目ができ、よい漁場になっている。日本海側を流れる暖流の対馬海流は黒潮が分岐した海流である。

(統計出典)「日本国勢図会 2010/2011」P184

[問題 6]

日本の漁業について、各問いに答えなさい。



(1) グラフ中の A、B に適する漁業を次から選びなさい。

〔 遠洋漁業 沖合漁業 養殖業 沿岸漁業 〕

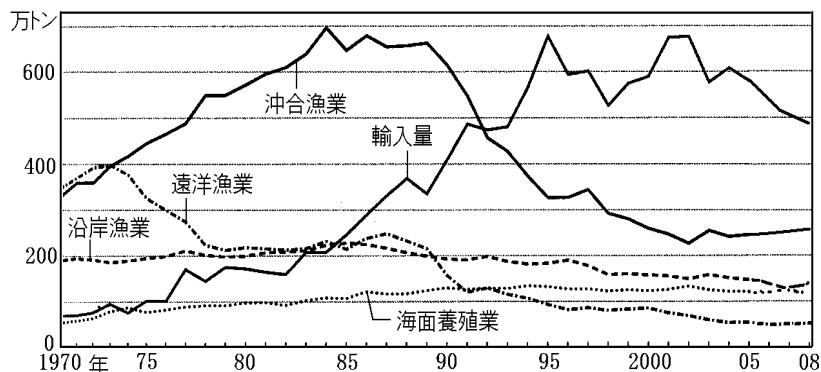
(2) B の漁獲量が 1970 年代に大きく減少したのはなぜですか。2 つ書きなさい。

(3) 人工ふ化させた稚魚を放流して、水産資源を増やす漁業を何とといいますか。

[解答欄]

(1)A 沖合漁業	B 遠洋漁業
(2) 各国が 200 海里の排他的経済水域(経済水域)を設定したため。石油危機によって燃料代が高騰したため。	
(3) 栽培漁業	

[解説]



B は大型の船で遠くアフリカ近海や南太平洋まで出かけおこなう**遠洋漁業**である。遠洋漁業は、戦後さかんになり、1970 年ころには、漁獲高の半分をしめるようになった。しかし、1973 年の**石油危機**による石油価格の値上がりで燃料代が高騰して採算がとれなくなった。さらに、1970 年代に、世界各国は資源保護のために **200 海里(約 370km)**の**排他的経済水域(経済水域)**を設定した。これらの原因によって遠洋漁業の漁獲高は大幅に減少した。グラフ B の遠洋漁業の漁獲高が 70 年代にほぼ半減していることが分かる。

A は中型の漁船で、数日かけて行う**沖合漁業**である。グラフのように、遠洋漁業にかわって 1970 年から 1985 年にかけて漁獲量が大幅に増加した。しかし、魚の種類によっては資源量の減少をまねき、1995 年の漁獲量は、1970 年と同じ水準になり、その後も減少が続いている。

C は小型の漁船で、日帰りのできる程度の沿岸でおこなう**沿岸漁業**である。漁獲高は横ばいの状態から、近年は減少の傾向にある。

現在の日本の漁獲高はピーク時の約半分になっている。1960 年から「捕る漁業から育てる漁業へ」の標語のもとに、養殖漁業と栽培漁業が進められてきた。**養殖漁業**は、内湾や入り江で、いけすやいかだを利用して、のり・かき・たい・はまち・くるまえばい・ほたて貝などを育てる漁業である。

栽培漁業は、卵をふ化させて、ある程度まで育ててから放流し、水産資源そのものを増やそうというやり方である。

(統計出典)「日本国勢図会 2010/2011」 P182

[問題 7]

「捕る漁業」から「育てる漁業」の標語のもとに進められた、「育てる漁業」を 2 つ書きなさい。

[解答欄]

養殖漁業(養殖)、栽培漁業